

# 国指定重要文化財大橋家住宅を

## 語る。かんじる。考える。

🌸 平成25年度文化庁「文化遺産を活かした地域活性化事業」

国指定重要文化財建造物「大橋家住宅」を中心とした阿知中・西地区の活性化に資する様々な講座を企画し、地域の文化遺産の継承とその活用を考えるプログラム。倉敷地域の特長である歴史性の継承とそれを踏まえた観光振興を考ます。



### Program 01

## 備中志塾 (全5回)

### 高梁川流域に学び、地方から世界に問う学びの場

「日本人にはニッポンがない」(政府公認広告のなかの一語)、といわれてから30年が過ぎようとしています。しかし、依然としてその状況に改善がみられません。この場合のニッポンとは、日本人としてのアイデンティティの共有にはなりません。そのアイデンティティとは、政治や経済の實力をもって誇示するところもありますが、それは長く続くものではありません。歴史を通じてみると、文化認識から醸成されるころに「昔屋のおうち」が認められるのです。とくに、日本では、これまで各地方ごとに多様な文化の相を伝えてきました。ひとつには、政治や宗教の強制的な関与が薄かったからで、おしなべて競い合うことなく共存、あるいは融合もしてきました。そこでは、相互に認めあう「寛容の精神」も育んでいます。これは、世界でも稀な歴史で、私たちがおおいに誇るべきところなのです。

そうした日本人としてのアイデンティティを語るには、まずはそれぞれが、地域の文化認識からはじめなくてはなりません。かつては、大人と若者、子供たちが伝統的な行事の準備段階から共働することで、それも可能でした。そこに、長老の語り部も存在し、その言葉(ことば)が尊重されるでもありました。その文化継承の仕組みが、現在(いま)崩れてきているのです。「ニッポンがない」ままの私たちがよいはずがありません。では、私たちは何をどう講じたらよいのでしょうか。

まずは、地域の文化に賞賛に反対して、語りあえる場が必要になります。地方から日本に問い、地方から世界に問う、その学習の場が必要になります。そして、「昔屋のおうち」を育んだ次代の人材を育てる場が必要になります。

それでも、そうでした。たとえば、山田方谷による「方谷塾」、阪(現)谷間由による「智匠塾」(附属塾)、柳西志計子による「真徳所」(順正女学校)など、郷中地方には、その伝統もあるのです。

ここでは、資格は問いません。ただひとつ、30年後、60年後にも「つなぐ」べく知的な財産をたくわえる郷中人としての「こころがし」を具有したい、と思います。ここに、私たちは高梁川流域に学ぶ「備中志塾」を創設いたします。

**第1回** 「備中神楽の“型”を考える」  
7月30日(火) 18:00~20:00  
会場 | 大橋家住宅 定員 | 40名 受講料 | 500円(学生無料)

**第2回** 「備中高梁“山と川の文化”を考える」  
8月26日(月) 18:00~20:00  
会場 | 頼久寺(備前市) 定員 | 40名 受講料 | 500円(学生無料)

**第3回** 「備中の“食と酒”を考える①」  
9月19日(木) 18:00~20:00  
会場 | 大橋家住宅 定員 | 40名 受講料 | 500円(学生無料)

**第4回** 「備中の“食と酒”を考える②」  
10月11日(金) 18:00~20:00  
会場 | 大橋家住宅 定員 | 40名 受講料 | 500円(学生無料)

**第5回** 「世界遺産候補「日本の伝統的な食文化」を考える」  
11月12日(火) 18:00~20:00  
会場 | 大橋家住宅 定員 | 40名 受講料 | 500円(学生無料)



### 講師 | 神崎宣武 氏 (長年学者)

1944年、岡山県生まれ。長年学者。主な研究テーマは「民間信仰」、「まつりと食文化」、「祭と観光」など。現在、京の文化研究会会長・文化振興会委員、東京農業大学客員教授、岡山県文化振興会委員などをつとめる。岡山県学芸員協会理事でもある。著書に、「観光長谷学への問い」(河出書房新社)、「物見遊山と日本人」(講談社)、「語り部の異色録」(法政新書)、「神楽と山と川と備前まよー」(ニッポン社)の他、学芸(小学館)、「まつりの食文化」(角川選書)、「隣の日本文化」(角川ソフィア文庫)などがある。